2012.09 Kumakei Press-02

くま経プしス

ニュース

装い新たに、空の玄関口



▲建物に巨大な屋根を乗せた国内線ターミナルビル。シルバーグレーの直線的な大屋根は、熊本城の瓦屋 根や天守閣を囲む櫓や塀のイメージを狙うと同時に、伝統的な日本建築の庇(ひさし)構造で、熱を遮り、 光を採り入れる機能を持つ。

色家の高津明美さんの原画、監修)蘇の山々を陶板で表現したレリーフ 下りエスカ の正面には、 ーフ「雲上の岳神」(には、雲海に浮かぶ が設置されている

ター2基、下りエスカレーター2基を増設した分。バリアフリー化でシースルータイプのエレ▶今回の増改築工事で道路側へ3m拡張された1 ター2基を増設した

完成した。

ナルビルの増改築工事がこのほど をかけて進めていた国内線ターミ 宏正社長)が、 てチケットロビーにゆとりを持た 奥行きを前面道路側へ3m拡張し 今回のリニューアルは、ビルの ビル前の歩道幅も従来の4m

さを向上させた。 さし)を設置し開放感と使いやす 基を増設したほか、トイレの改修、 高いシースルータイプのエレベー 案内サインの改良などを実施。 ター2基、下りエスカレーター2 から7・5mへ拡幅、大型の庇 バリアフリー化では、 視認性の

熊本空港ビルディング㈱ 総事業費約25億円 壁面や天井部分にふんだんに使われた県産材を中心とした木材が、ほのかに木の香りを漂わせている (安田

見る ▶湯浦川橋の橋脚は了本。地子木側から はおが架かる予定だ。津奈木側から はは桁が架かる予定だ。津奈木側から ははりいる。13年度中

守閣を囲む櫓や塀をイメージさ

直線的な大屋根が熊本城の天

んだんに使用し、シルバーグレー

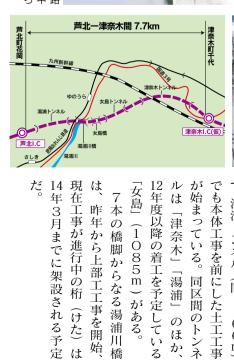
県産材を壁面や天井などにふ

やLED照明などを導入した。

境対応では、

太陽光発電システム

せている。



7本の橋脚からなる湯浦川橋

昨年から上部工工事を開始、

着実に南進している。

コンクリートをエート法」と呼ばれ、 ニンクリー

南九州西回り自動車道

工法」と呼ばれ、4m~5mずつ▼同橋の桁工事は「張り出し架設 いく工法が採用されている トを打設し桁を延ばし

本の〝九州縦軸〞、 南九州西回り自動車道(八代市-鹿児島市間約14〇㎞)。県内延 7㎞は15年度供用に向け、工事は 木IC(津奈木町千代) 間約7: 長約50㎞のうち、同ICから津奈 九州縦貫自動車道と並ぶもう1 高規格道路の

ルは「津奈木」「湯浦」のほか、 が始まっている。同区間のトンネ でも本体工事を前にした土工工事 で、湯浦トンネル (同1166m) 津奈木IC(津奈木町千代)など 川と国道3号をまたぐ湯浦川橋 (芦北町湯浦、延長413m) や 工事が本格化しているのは湯浦



"九州縦軸"、芦北町から南進着々

湯浦川橋で上部工工事が本格化